



国内Storage as a Service市場動向および予測を発表 今後、プラットフォームサービス (PaaS) の利用の際に 併用されるStorage as a Serviceに高い成長を予測

- IT専門調査会社のIDC Japanは、国内Storage as a Service市場の2009年の売上実績と、2009年から2014年までの予測を発表した。これによると、2009年の国内Storage as a Serviceの売上は208億7,700万円、前年比4.9%の成長。2010年は経済回復と共に成長率が上昇し、225億800万円、前年比7.8%の成長となる見込みだ。また、国内Storage as a Service市場の2009年から2014年までの年間平均成長率 (CAGR: Compound Annual Growth Rate) は6.9%、2014年の市場規模を314億円と予測している。

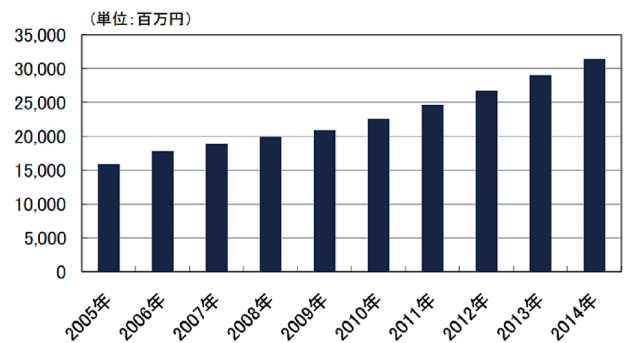
IDCではStorage as a Service市場の調査対象を「ストレージ製品 (ハード/ソフトウェア) を販売することなく、その利用のみを提供することで対価を得るサービスビジネス」としている。

2009年の国内Storage as a Service市場は、複数の新規サービスが開始された影響もあり、前年並みのプラス成長をキープした。国内で事業歴4年以上の実績を持つサービスでは、宣伝投資やマーケティング活動が減少する傾向が見えたが、事業歴が浅いいくつかのサービスによる販売拡大努力と新規参入のサービスの宣伝活動がユーザー数の増加に貢献し、市場規模を押し上げる役割を果たした。各種サービスの中で、ビジネスが比較的好調なのは個人向けバックアップサービスだが、対照的に企業向けバックアップサービスはまだ十分な数の顧客獲得に課題を残した状況が続いている。また、2009年から見られた傾向として、国内企業の全般的な支出見直しの影響により、一部のサービスで解約数

が増加したが、2010年には落ち着きを回復し、不況以前の低い解約率に戻っている。

2009年から2010年にかけて、国内のStorage as a Service市場でビジネスを展開する既存サービスにはクラウドブームが売上への影響を与えた様子は見られなかった。ただし、アマゾンの「S3」や「EBS」に代表されるプラットフォームサービスの利用に伴う新たなストレージサービスに関しては、2010年から本格的な売上が計上されることが見込まれる。さらに2011年以降には、プラットフォームサービス (PaaS) の利用の際に併用されるStorage as a Serviceが国内市場の成長セグメントとなるとIDCでは考えている。

IDC Japanストレージシステムズ リサーチマネージャーの鈴木康介氏は「2009年の厳しい経済環境



2005年～2014年 国内Storage as a Service市場 売上実績および予測 (Source: IDC Japan 3/2011)

の中で小幅ながらも成長を維持した国内Storage as a Service市場は、経済回復とクラウドサービスの普及に伴い、市場拡大の勢いが徐々に増すであろう。今後は、モバイル環境での生産性向上と、中堅中小企業のデータ保護/事業継続対策の2つが同市場の成長をけん引する顧客ニーズとなると考えられる」と分析している。

● お問い合わせ先 ●

IDC Japan(株)セールス
TEL: 03-3556-4761
E-mail: jp-sales@idcjapan.co.jp
URL: http://www.idcjapan.co.jp/